

麻酔科プログラム

一般目標(オリエンテーション)

福岡赤十字病院麻酔科は、年間3000例以上の手術麻酔管理を行うとともに、緩和ケア回診を担当している。麻酔科研修を通して研修医として習得が必要な血管確保、気管挿管等の手技を習得し、人工呼吸および循環管理等の全身管理の基本を習得する。研修1年目は、手術室での全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔の研修を行い、硬膜外麻酔および各種神経ブロックを見学する。研修2年目も全身麻酔と脊髄くも膜下麻酔を基本に、指導医と共に硬膜外麻酔および神経ブロックについても研修する。中心静脈カテーテル挿入の院内研修会を修了後は、指導医と共に中心静脈カテーテル挿入の研修を行う。

行動目標

B-1医学・医療における倫理性	麻酔で使用する麻酔薬および循環作動薬等の各種薬剤、気道確保、各種モニター、麻酔器、人工呼吸器および周術期管理についての知識を得る。
B-2医学知識と問題対応能力	麻酔を施行する患者の問題点およびリスク因子を指導医と共有し評価する。
B-3診療技能と患者ケア	麻酔研修を通じて、薬剤、輸液、気道確保、呼吸循環管理、麻酔器、各種モニターの使用方法とデータの評価ができる。全身麻酔、区域麻酔(脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、各種神経ブロック)について学ぶ。
B-4コミュニケーション能力	指導医と共に患者に対し術前診察を行い、麻酔方法およびリスクの説明と同意の取得を行う。
B-5チーム医療の実践	手術部看護師、各科医師、パラメディカルスタッフと良好なコミュニケーションが取れる。
B-6医療の質と安全の管理	麻酔中を含めた周術期の事故防止、医療安全について学ぶ。
B-8科学的探究	研修中に合併症や特殊な症例を経験した場合、症例検討を行い知識を深める。
B-9生涯に渡って共に学ぶ姿勢	機会があれば指導医と共に研究会や学会に参加する。

研修の方路(LS)

週間スケジュール	月	火	水	木	金
時間					
8:30～8:45	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス
9:00～17:10	麻酔研修	麻酔研修	麻酔研修	麻酔研修	麻酔研修

病棟業務:麻酔管理症例の術前診察および術後回診を担当麻酔科医あるいは指導医と共に行う。

手術:手術症例の麻酔管理を麻酔担当医あるいは指導医と行う。

カンファレンス:毎朝、8:30～8:45に行うカンファレンスで当日担当する麻酔管理症例について発表する。

その他 緊急時対応・学術活動等:

院内のRRS、ハリーコールに対応し、必要があれば気管挿管や心肺蘇生に参加する。

機会があれば、研究会、学会に指導医と共に参加する。

経験すべき症候(経験すべき症候29症例中1症候)		
1	ショック	○
2	体重減少・るい瘦	
3	発疹	
4	黄疸	
5	発熱	
6	もの忘れ	
7	頭痛	
8	めまい	
9	意識障害・失神	
10	けいれん発作	
11	視力障害	
12	胸痛	
13	心停止	
14	呼吸困難	
15	吐血・喀血	
16	下血・血便	
17	嘔気・嘔吐	
18	腹痛	
19	便秘異常(下痢・便秘)	
20	熱傷・外傷	
21	腰・背部痛	
22	関節痛	
23	運動麻痺・筋力低下	
24	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	
25	興奮・せん妄	
26	抑うつ	
27	成長・発達障害	
28	妊娠・出産	
29	終末期の症候	
経験可能な疾病・病態(経験すべき疾病・病態26疾病・病態中0疾病・病態)		
1	脳血管障害	
2	認知症	
3	急性冠症候群	
4	心不全	
5	大動脈瘤	
6	高血圧	
7	肺癌	
8	肺炎	
9	急性上気道炎	
10	気管支喘息	
11	慢性閉塞性肺疾患(COPD)	
12	急性胃腸炎	
13	胃癌	
14	消化性潰瘍	
15	肝炎・肝硬変	
16	胆石症	
17	大腸癌	
18	腎盂腎炎	
19	尿路結石	
20	腎不全	
21	高エネルギー外傷・骨折	
22	糖尿病	
23	脂質異常症	
24	うつ病	
25	統合失調症	
26	依存症(ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)	

経験可能な臨床手技	研修医1年次			研修医2年次		
	単独可能	単独不可		単独可能	単独不可	
		事前確認	指導医立会		事前確認	指導医立会
体位変換		○				
移送		○		○		
皮膚消毒		○		○		
外用薬の貼布・塗布		○		○		
気道内吸引・ネブライザー			○		○	
静脈採血			○	○		
胃管の挿入と抜去			○		○	
尿道カテーテルの挿入と抜去			○		○	
注射(皮内、皮下、筋肉、静脈内)			○		○	
中心静脈カテーテルの挿入)			○			○
動脈血採血・動脈血)			○			○
腰椎穿刺			○			○
ドレーンの挿入・抜去						
全身麻酔・局所麻酔・輸血			○			○
眼球に直接触れる治療						
①気道確保			○			○
②人口呼吸(バッグ・バルブ・マスクによる徒手換気含)			○			○
③胸骨圧迫			○		○	
④圧迫止血法			○		○	
⑤包帯法						
⑥採血法(静脈血、動脈血)			○		○	
⑦注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保)			○			○
⑧腰痛穿刺			○			○
⑨穿刺法(胸腔、腹腔)						
⑩導尿法			○			○
⑪ドレーン・チューブ類の管理						
⑫胃管の挿入と管理			○			○
⑬局所麻酔法			○		○	
⑭創部消毒とガーゼ交換						
⑮簡単な切開・排膿						
⑯皮膚縫合						
⑰軽度の外傷・熱傷の処置						
⑱気管挿管			○			○
⑲除細動等			○			○
検査手技の経験						
血液型判定・交差適合試験						
動脈血ガス分析(動脈採血を含む)			○		○	
心電図の記録		○			○	
超音波検査						
評価(Ev)						

研修医評価票を用いて、下記のとおり評価する。

A.医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)について、到達目標における医師としての基本的価値観4項目を評価する。

B.資質・能力について、研修修了時に習得すべき包括的な資質・能力9項目について評価する。

C.基本的診療業務について、研修修了時に身に付けておくべき4つの診療場面(一般外来診療、病棟診療、初期救急対応、地域医療)における診療能力について評価する。